

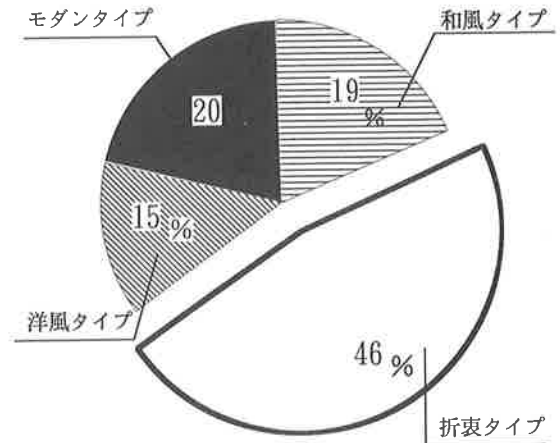
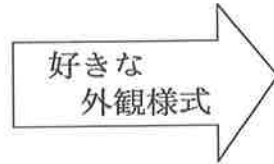
JKK

外観嗜好・住意識調査

<'92. 9. 7 発表>

好きな外観、嫌いな外観

- ・半数近くが折衷
- ・次いで「モダン」「和風」2割。
- ・「洋風」が最少で、15%。



JKK・住宅の外観4タイプ

タイプA～Dの中から「一番好きなタイプ」を選び、調査票にご記入下さい。
また、「絶対に嫌いなタイプ」があれば、同じく調査票にご記入下さい。



・和風タイプ



・和洋折衷タイプ



・モダンタイプ



・洋風タイプ

住環境研究所が<住宅の外観嗜好調査> 戸建て住宅のトレンドは和洋折衷

- *住宅選びで、外観を非常に重視するのは60%
- *最も支持が高い外観は『和洋折衷』46%
- *『和風』は年齢と共に高支持、逆に『洋風』は低下

株式会社 住環境研究所（積水化学工業株式会社の関連会社；社長丸野和也）は、このほど「住宅の外観嗜好調査」をまとめました。この調査は、同社市場調査研究室で商品開発のために定常的に実施しているものです。今回は、住宅見込み客の外観嗜好、注意意識を把握することを目的に実施しました。'91年4～10月の7ヶ月間に全国6地域の総合住宅展示場来場者を対象に9,911世帯にアンケートを送付、2,284世帯の回答（回収率23%）を得て分析したものです。

*外観は重視するが周囲との調和も

住宅の外観や、住まい方について聞いたところ、住宅選びでは『外観はそれほど重視しない』とする人が40%に対して、『外観を非常に重視する』とした人は60%もいました。

また、外観自己表現欲の度合いについて調査した結果、『外観はあくまで自分の好みにこだわりたい』とする人が59%に対して『外観は自分の好みを出すだけでなく、周囲に溶け込むような家が良い』とする“街並み重視派”が41%を占め、これからの家づくりの大きな流れになると考えられます。

*『和洋折衷』支持が46%でトップ

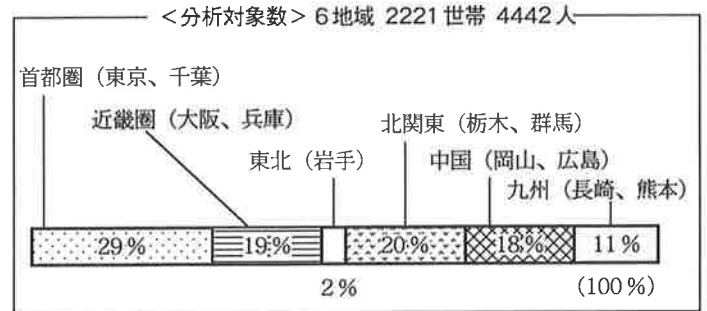
調査にあたって、住環境研究所では、戸建て住宅の外観様式を4タイプに分類しました。木造軸組工法に多くみられる〔和風タイプ〕、工業化住宅に代表される〔和洋折衷タイプ〕、鉄筋コンクリート造り、組積造り、フラット屋根住宅などに代表される〔モダンタイプ〕、輸入住宅やツーバイフォー工法に多くみられる〔洋風タイプ〕の4タイプです。これらのタイプを明示して、好きな外観で最も高い支持を得たのは『和洋折衷』の46%、次いで『モダン』20%、『和風』19%、『洋風』15%の順でした。

好きな理由としては、『和洋折衷』を選んだ人は、「飽きがこない」「和洋のよいところが活かせる」「町並みに一番合う」などをあげています。『モダン』が好きな人は「屋上利用が可能」「採光がよさそう」「シンプル」をその理由としてあげています。

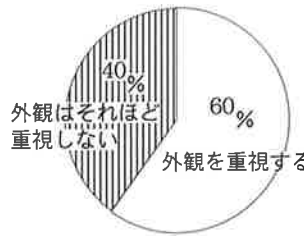
『和風』が好きな人は、「ぬくもりがある」「気候風土にあっている」「落ち着いた感じがする」をあげ、『洋風』が好きな人は、「夢がある」「変化に富んでいる」「個性的」を選んだ理由にあげています。

逆に嫌いで絶対建てたくない外観も聞いてみました。半数近い42%の人は、「嫌いな外観なし」と答えていますが、嫌いな外観として『洋風』27%、『和風』17%、『モダン』14%、『和洋折衷』1%未満の順。和洋折衷タイプにはほとんど拒否反応はありませんが、洋風、和風には拒否反応が現れています。

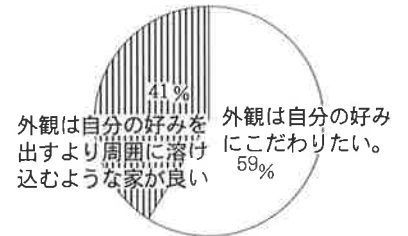
嫌いで絶対建てたくない理由としては、『和風』は、「古臭い」「ありふれている」「機能的でない」をあげ、『洋風』では「日本的でない」「安っぽい」「周囲とマッチしない」などがその理由。『モダン』については「冷たい感じ」「屋根が平ら」「箱のよう」をあげています。



住まい選びの外観重視度

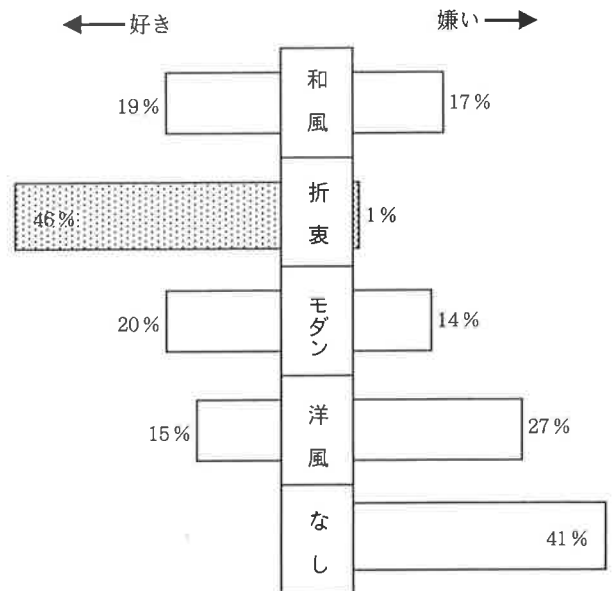


外観自己表現欲度合



・予算が高くなるに従い、「重視する」が増える傾向

好きな外観様式・嫌いな外観様式



・好きな外観トップは折衷タイプ

・「折衷」タイプに拒否応答なし
・6割の人が嫌いな外観明示

***年齢と共に『和風』支持**

住宅の外観嗜好は年齢によって変わっています。年齢によって大きな変化が出ているのは『和風』と『洋風』です。『和風』は34歳以下では11%ですが、35～39歳では15%、40～44歳18%、45～49歳26%、50～59歳34%に高まります。ただ、60歳以上では31%に減少しています。

『和風』と対照的なのが『洋風』で、34歳以下22%、35～39歳15%、40～44歳15%、45歳～49歳14%、50～59歳7%、60歳以上5%となっています。一方、『和洋折衷』『モダン』は年齢によって支持率にそれほどの変化は出ていません。

***外観嗜好のトレンド推移**

住環境研究所では、5年前から外観様式嗜好について定期的に調査をしてきていますが、この間の推移で見ると「和洋折衷」や「モダン」タイプが漸増し、「洋風」や「和風」タイプの減退傾向が顕著です。特に5年前はツーバイフォー住宅に代表される「洋風」タイプが41%と主役に位置していましたが、現在は「和洋折衷」が45%と首位に立ち完全に人気が逆転しました。

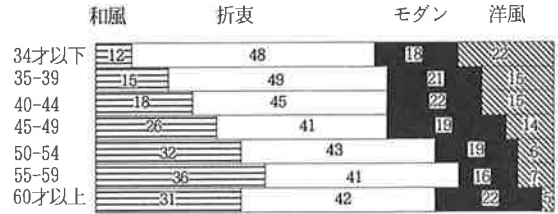
今回の調査から、好きな外観と嫌いな外観の関係を見ると、和風好きは洋風を嫌い、洋風好きは和風嫌いの傾向がでています。

好きな外観でナンバーワンを占めた“和洋折衷派”は洋風嫌いが多く、どちらかといえば和風よりにシフトしています。

和風のよさと洋風のよさを取り入れたいいわば和洋融合の「今和風」が日本の戸建て住宅の外観イメージの主流として浮上してきた感があります。

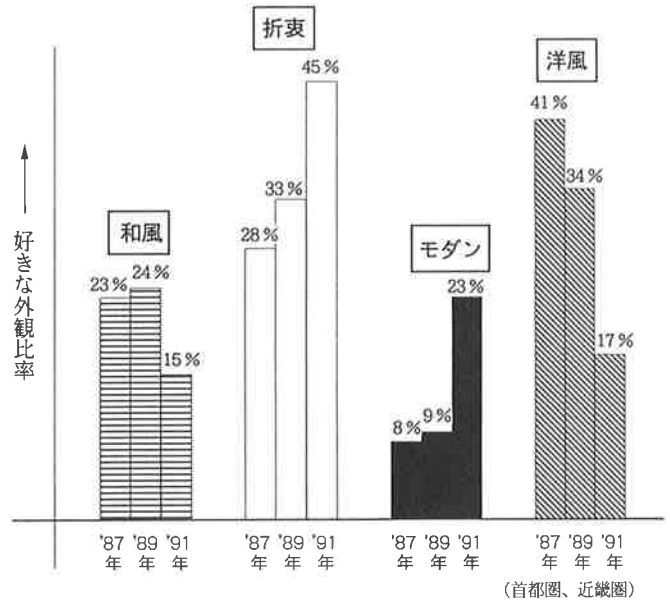
年齢別外観嗜好

- ・ 高齢層になるに従い、「和風」が増え「洋風」が減る。



外観様式嗜好のトレンド推移

- ・ この5年間で「和風」「洋風」が減り、「和洋折衷」や「モダン」タイプの外観を好む人が増加している。



本件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。
 株式会社 住環境研究所 担当：金子、松下
 ☎ 03-3256-7574 (代)

定着しつつある「日本の住宅を代表する外観様式」

昭和それも日本に住宅産業が萌芽して以来、日本の住宅の外観様式は、日本社会や住環境の急激な変化の中で、固有の伝統様式や欧米様式をうまく取り入れようという努力がなされてきた。ところが、必ずしも完成、成熟した「型」「様式」までに至らず、「紛い物」を抜け出せなかった。それは「和洋折衷」とか「和洋融合」とか、常に和風（伝統）と洋風（渡来）の2極のバランスの上で、個々に様式を取り入れるという視点で努力がなされてきたためと思う。

本来、住宅の外観様式は生活スタイルや風土、住宅の作り方、使う材料によって自然に生まれ、歴史の波の中で完成されていくものである。今まで、住宅の作り方や材料に関係なく、伝統様式や渡来のものを取り入れようという試みに多少の無理があったように思われる。

日本の住宅の工業化も30年以上の歴史を経て、このところ著しい高度な進展を見せ、その生産や供給方式に自信を深めてきた。それに伴ない、ある「型」「様式」が現在の住環境下のもとで、住まい手の評価にもまれながらようやく完成度を深め、住まい手の共感を呼び、日本の住宅のスタイルとして理解される様になってきた。これは「これからの日本の住宅を代表する様式」として、現在の日本風土と住生活に自然に根付いてきたものである。ことさらスタイルを主張するものでなく意図的に生み出されたものでもない。この様式に対して今回のJKKの調査では、50%近くの人が支持し、嫌いな外観として挙げる人が皆無という結果が出ており、今や日本の住宅を代表する「様式」「型」として定着してきたものと考えられる。今は“和洋折衷”にタイプ分けされる様式が、更に完成、成熟して日本の代表として認識され、やがて新たな様式名も付加されるに違いない。

この様に考えられるのは、当研究所の調査で、この様式が年々支持を高めていること、及び住まい手の住意識面で「住宅の外観は個性的であるよりも街並みに自然に溶け込むことをよしとする」を支持する人の割合が漸増し、50%に近づいていることが挙げられる。

いづれにしてもこの様式は、工業化住宅がもたらした日本の戸建て住宅独特の外観様式であり、今後も住まい手の評価を得て、新しい住宅様式として定着していくことが予想される。

株式会社 住環境研究所
所長 金子昌平